

## オープン市場短信 (2007年4月)

2007.4.09

### 3月のCP市場動向

3月のCP新規発行額は、期落ち(約6兆2千億円弱)を大きく下回り5兆3,200億円程度となった(除く、ABCP・金融機関発行CP)。月中償還の発行も多く、期越え発行は約4兆1千億円程度に止まったことから、3月末の発行残高は5ヶ月ぶりに19兆円を割り込んだ。これは、期末で事業法人が有利子負債圧縮を積極的に進めたことによるもので、実際に全体の8割弱の企業で発行残高が横這いないし減少となった。一方、ABCPや証券会社の発行残高は増加し、ABCPは昨年4月以来11ヶ月ぶりに5兆円台を記録した。

発行レートは、債券レポレートが高止まりを続けたことの影響を受け、月前半は強含みで推移した。月中償還案件に関しては、0.58%~0.70%近辺までの出会い。期越物(a-1格)は、月初0.65%近辺からスタートし月央0.70%前後まで強含みとなった。その後は期越え発行案件が減少するとの見通しから、期末越えの資金繰りに目処をつけたディーラーが引受姿勢を積極化したため徐々に低下し、0.65%割れで越月となった。

銘柄別の発行レート

### 3月のCPレートレンジ

格付	1ヵ月	2ヵ月	3ヵ月
格付 a-1+(オペ適格)	0.588 ~ 0.670%	0.619 ~ 0.660%	0.590 ~ 0.645%
格付 a-1 (オペ適格)	0.62 ~ 0.720%	0.62 ~ 0.690%	0.599 ~ 0.695%
格付 a-1+(リース銘柄)	0.583 ~ 0.680%	0.623 ~ 0.673%	0.645 ~ ケ0.68%
格付 a-1 (リース銘柄)	0.66 ~ 0.720%	0.659 ~ 0.810%	0.635 ~ 0.850%
格付 a-2	0.65 ~ 0.950%	0.59 ~ ケ1.20%	0.679 ~ ケ1.50%

### CP オペ

CP現先オペは、2月23日に4月6日エンドの期越えオペが実施されたが、3月は新規ベースでのオペ実行はなかった。

### 3月末のCPオペ残高

3月末のCP現先オペ残高・・・3,080億円。

(短期社債・保証付短期外債億円2,850億円/資産担保短期債券230億円)

### ABCP

3月末のABCPの発行残高は5兆3,747億(前月比約1兆108億円増加)と、企業の期末におけるオフバランス需要を受けて大幅に増加し、前年同月(5兆3,723億円)と同水準になった。

### 短期社債残高

証券保管振替機構発表によると、短期社債の3月末発行残高は18兆9,672.60億円と前月比約9,717億円の減少であった。業種別ではABCPが大幅増加、証券会社・銀行も期末の資金ニーズから増加したが、事業法人が1兆9,500億円弱減少し、その他金融も約2,530億円減少となった。大幅減少となった事業法人について銘柄別に見ると、電気メーカーはほぼ半減、鉄鋼・不動産なども大幅減となった一方、電力会社・石油会社は増加となった。

発行登録企業437社中既発行企業は410社となった。

## 現先市場

月中現先レートは、準備預金の積み期間の関係で債券レボやインターバンク市場金利が変動したことを受けて、振れの大きい展開となった。月中物は0.55%~0.65%の出合い。期末越えでは0.70%台での出合いも見られたが、発行レートの低下を受けて20日前後から低下に転じ、他市場に比べ早めに高止まりが解消した。

## 4月のCP市場動向

4月中のCP償還額は、前年（約3兆2,000億円）を上回り、約4兆1,200億円となっている（除く金融機関発行CP・ABCP）。期初は、電力会社などのショートターム物の大型期落ちが多く発行は少な目とみられるが、徐々に期末残高を落とした先の復活発行や新規発行が本格化することから月末残高は19兆円台に戻ると思われる。

発行レートについては、第一週は期明けに伴う投資家・ディーラーの購入ニーズの増加からレートは弱含みで推移し、FBセカンダリーレートに接近する地合いとなった。第二週以降は発行が増加するにつれ、レートは横這いからやや強含みで推移すると思われる。もっとも、夏頃までは金融政策変更の可能性も低いと見られることから、0.50%台後半から0.60%台前半の狭いレンジでの出合いを予想する。

尚、現在のCPレートプライシングは、銘柄間格差も殆ど無く、全体に足元金利にサヤ寄せする状況にあるが、金利が復活した市場では格付け等のリスクを勘案した上で個々に適切なCPプライシングが行なわれるようになっていくことが期待される。

## CPオペ

現先オペは、6日に期日が到来したが継続されなかった。資金需給を勘案して、月後半の不足日に実行されるのではないかと見られる。

## 現先市場

月中現先レートは、S/N物で0.52~0.62%の出合いを予想する。ターム物は0.53~0.58%の水準の出合いを予想する。

## 参考資料

### 業種別残高内訳

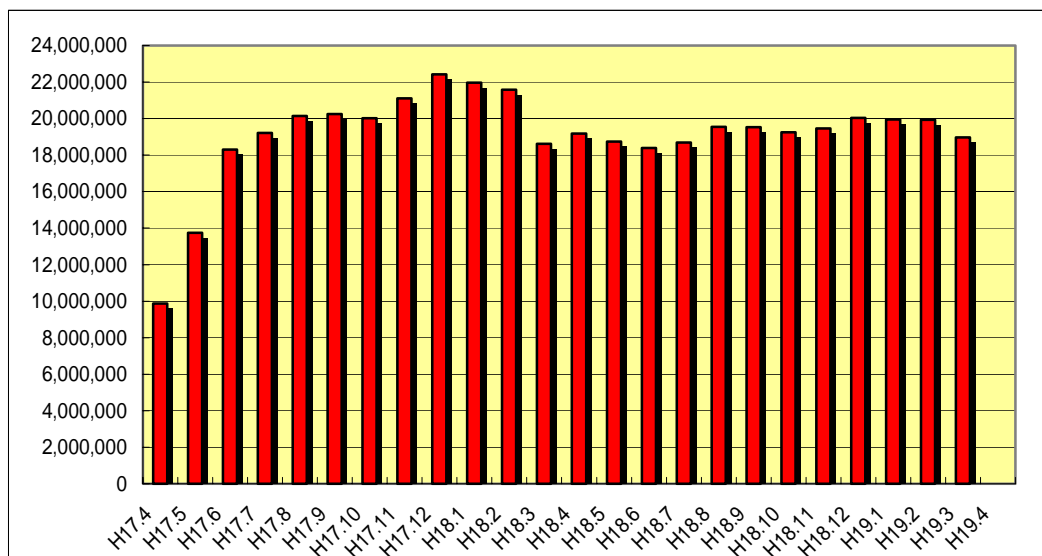
			単位:億円
業種	3月末残高	2月末残高	増減
事業法人	44,186	63,640	19,454
その他金融	66,804	69,333	2,529
金融機関	24,935	22,777	2,158
(銀行等	11,518	11,283	235)
(証券	13,417	11,494	1,923)
ABCP	53,747	43,639	10,108
計	189,672	199,389	9,717

(注:買入消却分含む)

## 短期社債月末残高 (H17年4月~H19年3月)

3月末発行残高 : 18兆9,672.60億円

発行登録企業 : 437社 (発行実績あり 410社) (単位:百万円)



## 3月末発行残高ベスト20

(単位:百万円)

順位	発行企業名	3月末残高
1	フォレスト・コーポレーション	946,477
2	オリックス	769,200
3	エイベックス・ファンディング・コーポレーション	707,100
4	コンチェルト・レシーバブルズ・コーポレーション	691,200
5	ダイヤモンドリース	552,300
6	日産自動車	450,000
7	新日本石油	423,000
8	アルカディア・ファンディング・コーポレーション	413,100
9	みずほコーポレート銀行	402,600
10	住商リース	382,000
11	ミレニアム・ファンディング・アセット	379,300
12	みずほ証券	360,200
13	UFJ セントラルリース	332,000
14	UFJ ニコス	328,000
15	東京リース	306,200
16	大和証券 SMBC	301,500
17	三井住友銀リース	301,100
18	日産フィナンシャルサービス	300,000
19	住友信託銀行	293,700
20	興銀リース	284,700

参考出所 (株)証券保管振替機構